

Ⅵ モデルプラン（小学校入学時の学校から家庭への

効果的な支援方法）の提案

1 保護者の来校の機会をとらえる

（１）就学時健康診断

プラン1

1 プラン名 「子育て教室でのアプローチ」

2 ねらい

就学予定者の保護者が、必ず学校へ来る機会を生かして、学校の様子を知らせたり子育て教室などを実施したりして、就学までの準備が進められるようにする。

3 内容

- （１）時期 就学時健康診断
- （２）場所 体育館
- （３）誰が 講師（目的に応じた）
- （４）誰に 就学予定者の保護者

4 方法

就学予定者が健康診断を行っている間、保護者には、校長の学校紹介と子育て教室を行い有意義な時間とする。特に、子育て教室では入学前にできるようにしておいてほしい基本的な生活習慣について、理解が得られるように進められるとよい。

例えば、読み聞かせグループを招き、保護者同士の簡単なスキニシップが図れるような活動を行い、読書の大切さや子どもに読ませたい本の紹介等を行うのも一案である。また、行政や民間団体と連携、基本的な生活習慣の定着をはかるために、食事の大切さを知らせる教室を開催していく等工夫して実践する。



【子育て教室：読み聞かせ講座】

保護者感想より

『「絵本とは大人が子どものために読んであげる本」とおっしゃった言葉がとても印象的でした。わたしの中で「子どもが読む本」という、何となくあったものが変わりました。これからはなるべく時間をつくって読んであげたいと思いました。』

5 期待される効果

就学時健康診断は保護者が必ず参加する。就学も間近に迫ってきているという意識もあり、就学前に身につけておいてほしいことが効果的に伝えられる。

読み聞かせ講座などは、読書に力を入れている学校も増えてきており、就学前から本好きな子どもが増えると教育効果も増大すると考えられる。



研究協力委員からのアドバイス



小学校入学は子どもだけでなく保護者にとっても成長の節目になります。期待と不安が一杯の時期、全てが初めての体験です。それは子どもだけではなく保護者にとっても同様です。親子にとって小学校入学は、はじめの一步です。誰もが学校へ足を運ぶこの機会を「三者」にとって素敵な出会いの始まりにしましょう。そのためには、現状にあわせた取り組みが求められています。

楽しくなければ始まらない！

一方的な話とプリントでは・・・私語も多くなり、時間だけ過ぎもったいないです。聞いてみよう！見てみよう！と、わかりやすい説明や視覚に訴える工夫が必要です。はじめが肝腎。導入しだいで雰囲気が変わることでしょう。

説明の際は、専門用語は控えめに。理解しやすい言いかたや表現を心掛けてください。



子育てに戸惑う保護者が増加！

親も一生懸命子育てをしています。「家庭教育ができていない」と言うのではなく、不安を抱え子育てし、どう関わっていいか、何をどのように教えればいいのか、わからない保護者が増えているのです。経験不足は子どもだけでなく保護者も同じです。

子育ての大変さ、子どもを取り巻く環境への不安等を理解してください。「なぜ？」「どうして？」と思う行動にも、何らかのきっかけや理由があるはず。声を掛けてみてください。話しを傾聴する姿勢をもってください。理解しようとする気持ちが、何かをはじめの一歩になると思います。学校は保護者の理解者になってください。保護者は理解されることにより自分の子育てを振り返る機会や今後の家庭教育について考えるゆとりへとつながるはずです。



家庭で見ている子どもは満点かも！

保護者は子どもの成長を楽しみにしています。集団の中での姿と家庭の中での姿は違って当たり前です。でも学校や保護者を対象に行ったアンケート等の結果では、学校と家庭では子どもに対しての認識の差が大きく、相互理解不足？があるのではとされています。アンケートやチェックリストを定期的実施し親視点と学校視点のズレを明確にし



ていくことが、改善の糸口を見つけていく事になるのではないのでしょうか。



プラン2

1 プラン名 「就学時健康診断で講演を聞き、自分の子どもができることを知ろう」

2 ねらい

- (1) 講師による講話を聞き、小学校に入学する際の心構えを知り、しつけなければならぬことに気づかせる。
- (2) 自分の子どもができることと、やっておかなければならないしつけについて、自分の子どもの姿と比較して考えさせる。

3 内容

- (1) 時期 就学時健康診断
- (2) 場所 体育館
- (3) 誰が 目的にあった講師
- (4) 誰に 就学予定者の保護者

4 方法

- (1) 子どもたちが健康診断に行っている間に講演を聞く。
- (2) 就学時健康診断のお知らせと共に、知りたいことや困っていることなど相談したい内容（今回のアンケートの結果を活用する。）をアンケート等で調べる。→その結果に基づき、講師や講演内容を決定する。
- (3) 演題として「今なら間に合う、学校生活をスムーズに過ごすためのしつけ」「あなたの子どもはできますか？」など具体的なものにする。
- (4) 保護者が自分の子どもに対してできるチェックリストを取り上げるなど実践的で実際に身につけ、聞き手が参加できるような講演にする。
- (5) チェックリストの内容は、食事・しつけ・5分前行動など、入学前にできないと困ること、集団で生活するために必要な行動などを取り上げる。
- (6) 「名前を言う。」「返事をする。」「手を挙げる。」「姿勢良く座る。」「まっすぐに立つ。」など、保護者が参加して自分の子どもに必要なしつけの確認と心の準備をさせるためのものとする。
- (7) 時間は、30分位とする。
- (8) 幼児がいる保護者のために、キッズスペースを設け、絵本の読み聞かせやおもちゃで静かに遊ばせるなど、参加しやすい工夫をする。

5 期待される効果

就学時健康診断には、全員の保護者と子どもたちが集まる。そこで、講演を聞くことを通し、すべての保護者が入学前にしつけておかなければならないことを知ることができる。



【VTRの様子】



【講師による講演】

◇ 今年度実践した事例から

今年度の就学時健康診断は、講演会・VTR視聴を実施し、保護者の方にはアンケートに答えていただいた。その結果、「参加してよかった」と、「講演がよかった」という回答が約8割に達した。

寄せられた感想も、

- 入学まで身につけさせたいことなど改めて気づかされたことがあった。
- それぞれ子育ての悩みを持っていることが分かった。
- 毎日仕事に追われている。改めて、「子育て」ということを意識できた。
- 子どもに対してゆとりを持って接していきたいと感じた。
- 子どもの接し方を学ぶことができた。
- 初めて小学校に入るので、親も周りのことが全く分からないので、心構えが少しできた感じがする。
- 毎日の子育ての参考になった。「子どもは親の姿を見て育つ。」本当にそうだと思う。
- 子育てをされていて、忘れかけていた気持ちなど、お話を聞いて改めて感じたところがあった。
- 忙しくしていると忘れてしまいがちな子育ての基本を改めて再認識できた。話を聞く機会がなかったので、参考になった。
- 改めて、「子育て」について考えさせられ、子育てについて今後の参考になった。
- 本当に身近なこと心配なことを分かりやすくお話ししてくれた。①子どもたちにどんなことが大切かという説明（食事・睡眠）②しつけ（5つ教えて3つ褒め2つ叱る）あいさつ・言葉遣い③ビデオ（子育ては合理的ではない。ゆったり育てる。）
- 基本的なこと（あいさつなど）をいろいろ話してもらったからよかった。
- 子育ての親の態度や考え方を改めて考える機会となった。
- 子育ての視点でいろんな人のお話が聞けてよかった。
- 小学校入学前の心配事が話の中で聞けてよかった。親も勉強になった。

- 教育相談をしていた人の具体的なお話が聞けてよかった。
 - 子育ての先輩としてのお話が聞けてよかった。
- など、多数あった。



研究協力委員からのアドバイス



「保護者自身が、子どもの成長のモデル」です。保護者に、人の話をきちんと聞く態度や決まりを守ること、早寝早起き朝ご飯などの基本的生活習慣のお手本を示すことの重要性を再認識してもらいましょう。

子どもの心身の成長のためには、親子関係が大切です。「1日5分でいいから、その子だけと向き合う時間」を作りましょう。このことは幼児期だけでなく、中学・高校になっても必要なことです。

また、子どもの発達に合わせたお手伝いをさせ、人の役に立つ体験やほめてあげる機会を作ることも必要です。小さい子に手伝ってもらうとかえって時間のかかることもあります。そこは我慢です。体験を積み重ねることで、今までできなかったことができるようになり、子どもが自信を持てるようになると思います。

しかし、様々なご家庭の事情や子どもの個性があり、現実問題としてはできないこともたくさんあります。自分の家庭でできることを一つでも選んで実践してもらえそうな働きかけが必要でしょう



プラン3

1 プラン名 「子育てパネルディスカッション」

2 ねらい

- (1) パネルディスカッションを通し、よりよい子育ての仕方や入学前にしつけておくべきことなどを保護者に気づかせる。
- (2) 入学前の緊張した保護者の気持ちを和ませ、心に余裕を持ったリラックスした子育てを進めさせる。

3 内容

- | | |
|----------|-----------------|
| (1) 時期 | 就学時健康診断 |
| (2) 場所 | 体育館 |
| (3) 誰が | 教員、保護者代表、子育て支援員 |
| (4) 誰に | 就学予定者の保護者 |
| (5) 所要時間 | 約1時間 |



4 方法



- (1) 子どもたちが健康診断を行っている間に行う。
- (2) 「家庭教育で大切なこと」をテーマに、ディスカッションを進める。
- (3) パネラーは、現1年生保護者
現3年生保護者
現6年生保護者
子育て支援員の4名。
- (4) 司会は、教頭(または教務主任)が行う。
- (5) まず、各パネラーが、それぞれの子育ての経験や心掛けてきたことなどについて、5分間程度発表する。その後、司会が進行役となり、パネラー同士への質問や意見の交換を行う。司会は、就学予定者の保護者へも意見の発表を求め、会場が一体となったディスカッションを進める。
また、適宜、子育て支援員からのアドバイス等も盛り込む。

【話し合いの内容例】

- これだけは身につけさせたい我が家の生活習慣。
- 人とのかかわりを豊かにする〇〇遊び。
- 今だから言える私の失敗談。

5 期待される効果

- (1) 各パネラーの実践や考え方を聞くことにより、家庭教育の大切さや入学前にしつけておくべきことなどに気づかせることができる。
- (2) 他の人の苦労や悩み、失敗談を聞くことにより、共感的な思いを持たせ、リラックスした子育てがすすめられる。





研究協力委員からのアドバイス



その1

就学時健康診断や入学説明会は、就学予定者の保護者全員が小学校に来校する行事です。その機会を利用して、少しでもスムーズに学校生活が送れるように、学校の様子を知らせたり、入学までに家庭で身に付けさせたい基本的な生活習慣などを知らせたりすることは、保護者が小学校生活を知り、疑問や不安を取り除くことに役立ちます。

乳幼児を連れて来る方のために、その子を預かることも一つの方法ですが、乳幼児を静かにさせる工夫をしている保護者もたくさんいます。その工夫を教えることも大切です。

- パネラーの選出が鍵を握ります。ねらいや趣旨に沿うように、事前の打合せも大切です。先輩ママやベテラン教師、子育てアドバイザー、在校生の保護者など、若い保護者の共感を得られるお話をしていただける方を探しましょう。
- できなくて困っている保護者もたくさんいます。失敗談も交えて紹介すると、肩の荷が降りて、子育てに余裕ができるでしょう。
- 子育てに困っている保護者に具体的な支援の手立てが示せるといいですね。
 - ・ 相談しやすい雰囲気を作る。
 - ・ アンケート用紙を配布して、不安を抱えてくる保護者の方が子どもの健康や発達について相談したい内容を記入してもらい、後日、相談日を知らせるなど。

その2

- 働く保護者はなかなか学校へ来る機会が有りません。就学時健康診断はほとんどの方が参加しますので、この日に保護者と一緒に「家庭教育で大切なこと」を考えることはとても大切だと思います。
- 健康診断の待ち時間を使って保護者に解りやすい講話をするのは良いですね。講話の中味を上手く選ぶことが大事でしょう
- パネラーは保護者の代表だけでなく子育ての専門家やアドバイザーが入ると良いですね。

その3

校長先生からは、家庭の役割について「これだけは！」というものをお話ししてください。いいことをたくさん聞いても、できることはほんの少しです。「家庭でしかできないこと、家庭の持つ力の大きさ」を保護者に再認識していただきたいです。

保護者の意見や体験談を聞けるのは、とても楽しくためになるでしょう。子育てをしていると、こうすればよかったとか、あの時こんなことを教えてもらっていたら…と思うことはよくあります。少し先輩のお父さん・お母さんから、アドバイスをもらえると、心強いですね。うまくいったことだけでなく失敗談などもお話しいただけると、より親しみがわき、うちでもできるかなと思えるのではないのでしょうか。パネラーの選出に当たっては、お母さんだけでなく少なくとも1人は、お父さんをお願いします。

成長・発達には個人差があり、また家庭ごとに様々な事情があるので、必ずしもうまくいくとは限りません。そんな時には、「学校はいつでも相談にのれる」ことをお話しすることが大切でしょう。



プラン4

1 プラン名 「目で見る講演会」

2 ねらい

- (1) プロジェクターを活用した視覚的プレゼンテーションにより、子どもの発達のためやすや子育てのあり方等を理解させる。
- (2) 小学校の様子(生活の仕方や行事の取組等)を映像で紹介し、学校の特色や活動状況を知らせる。

3 内容



- | | |
|----------|-----------|
| (1) 時期 | 就学時健康診断 |
| (2) 場所 | 体育館 |
| (3) 誰が | 学校 |
| (4) 誰に | 就学予定者の保護者 |
| (5) 所要時間 | 約40分間 |

4 方法

- (1) 子どもたちが健康診断に行っている間に行う。
- (2) 校長が講師となり、就学前の子どもの発達のためやすやをプロジェクターで映写し、プレゼンテーションを行う。また、親としてのよりよい子育てについても事例をあげてわかりやすく話す。
- (3) 司会は、適宜質問等を受け付け、保護者のニーズに応える講演会としていく。
- (4) 講演終了後には、学校生活の様子や学校行事の取組をまとめた学校紹介ダイジェストを上映する。

5 期待される効果

- (1) 視覚的なプレゼンテーションを実施することにより、保護者の関心を高めることができるとともに、その内容をわかりやすく理解させることができる。
- (2) 具体的な事例をあげて話すことにより、実際の子育てに役立つ情報を保護者に伝えることができる。
- (3) 学校紹介ダイジェストを上映することにより、早い時期から学校の様子を保護者に知らせることができるとともに、見通しを持たすことができる。

プレゼンテーション事例

就学時健診校長講話

もうすぐ1年生

もうすぐ

市立

小学校の1年生で～す



市立 小学校長

子どもの発達のためやす1

- ◆ はねかえったボールがつかめる
- ◆ 片手でまりつきができる
- ◆ なわとびができる
- ◆ はさみをつかうことができる
- ◆ チームに分かれた遊びが出来る



子どもの発達のためやす2

- ◆ 三角や四角が書ける
- ◆ 絵物語のあらすじが言える
- ◆ ひらがなへの関心が出てくる
- ◆ 小から大へ順に並べるなど系列の理解が出来るようになる
- ◆ 自分の経験による判断の芽生えが見られる





どこまでできますか1

- ◆ あいさつとへんじができますか
- ◆ はやね、はやおき、すいみん10時間をまもっていますか
- ◆ 手洗いの習慣が身についていますか
- ◆ 歯みがきは決まった時間にしていますか
- ◆ うんち、おしっこがひとりでできますか



どこまでできますか2

- ◆ 服の着替えは一人でできますか
- ◆ 自分のことはだいたい自分でできますか
- ◆ かんたんな交通ルールは知っていますか
- ◆ かたづけが、はやくできますか
- ◆ ものをたいせつにしていますか





どこまでできますか3

- ◆ 思っていることがきちんといえますか
- ◆ わがママを言ったり、駄々をこねたりしませんか
- ◆ 友だちとなかよく遊べますか
- ◆ じゅんばんをまもることが出来ますか
- ◆ 悪いことをしたら、ごめんなさいとあやまれますか



夫婦の関係

仲がよいと子どもの心が安定します



親とは？

◆「思いやり」があって「やさしい」

◆「おっかなくて」「にくたらしい」



たたいて育ててはいませんか？

たたいて育てると、子どもも人をたたくようになります

(バタードチャイルドシンドローム)



悪い叱りかた

- ◆ 怒鳴りとばし型
- ◆ ねちねち型
- ◆ 過去持ち出し型
- ◆ 約束反古型
- ◆ 暴力型
- ◆ 脅し型
- ◆ 言いつけ型



よい叱りかた

- ◆ 必ず座らせて
- ◆ 目を合わせながら、さとすように
- ◆ 説諭(せつゆ)が基本

まとめ

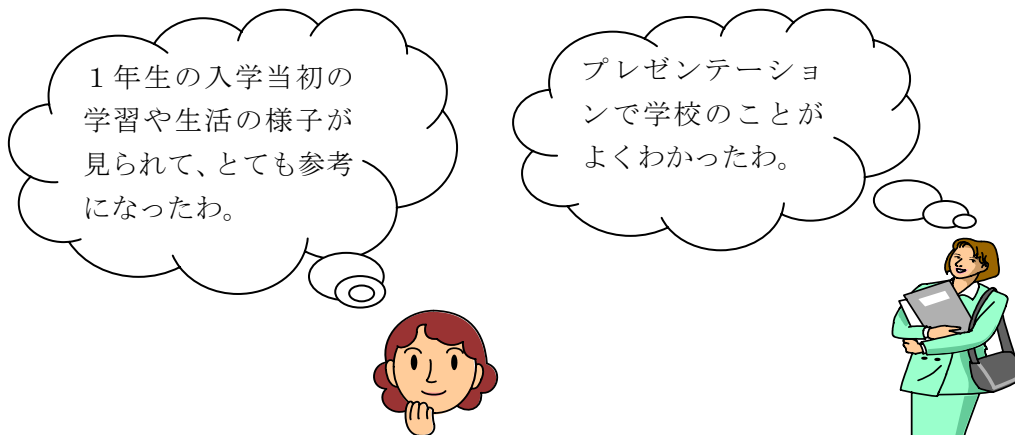
- ◆ 道筋は教える
- ◆ 脅さない、怒鳴らない、たたかない
- ◆ できるだけ、早くといわない
- ◆ よく見る、よく聞く、よく誉める、半分できれば誉める、必ず誉める
- ◆ 「かわいくば、五つ教えて、三つ誉め、二つ叱って良き人にせよ」



研究協力委員からのアドバイス



- 映像を使ったプレゼンテーションはメディア時代に育った保護者には最適です。
- 「保護者と子どもをいっしょに育てる」という視点から、家族や親子のスキンシップを大切にする内容を入れてみてはいかがでしょうか。
- 「子どもの発達のためやす」や「どこまでできますか」の内容が、時として保護者の不安をあおる場合があります。学習に偏らない工夫が大切です。



(2) 入学説明会

プラン5

- 1 プラン名 「入学説明会で1年生になって、授業を受けよう」
- 2 ねらい
 - (1) 小学校に入学する際の心構えを知り、自分の子どもにできていることと、今後しつけなければならないことに気づかせる。
 - (2) 子どもには、授業を受けるという疑似体験を通し、学校生活への関心とともに安心感を持たせる。

3 内容

- | | |
|--------|-------------|
| (1) 時期 | 入学説明会 |
| (2) 場所 | 1年生の各教室 |
| (3) 誰が | 1年生の各担任 |
| (4) 誰に | 就学予定者とその保護者 |



4 方法

- (1) 入学説明会の最初に、受付を済ませた順に1年生の各教室に入って座る。
- (2) 10分から20分位の簡単な授業を行う。
- (3) 内容としては、遊びながら、ゲーム感覚でできることなど簡単で楽しめるものを計画する。その際、保護者が参観して、自分の子どもに必要なしつけを感じる内容を盛り込むよう留意する。
- (4) 授業というより、できて当然のこと（生活面の規律やしつけなど）を中心とする。
- (5) 保護者は勉強が終わり説明会の時間になったら体育館へ移動する。そして、従前の入学前の心構えや学校生活に必要な用具などの説明を聞く。子どもたちは、6年生による読み聞かせや紙芝居・お絵かきや簡単なゲームなどで引き続き1年生の教室で過ごす。

5 期待される効果

- (1) 入学説明会には、全員の保護者と子どもたちが集まる。そこで、簡単な授業を先に経験することで、自分の子どもが座っていただけるか先生の話聞けるかなど実際に見てしつけておかなければならないことに気づくことができる。
- (2) 1年生の教室や先生の授業を見て、1年生になったときのことが、事前に分かり安心感や期待が持てる。全員が出席するこの日に、入学前のしつけなどについて、共通の知識を持つことができる。



【1年生の教室環境・掲示物など】

プラン6

1 プラン名 「1年生の学習の様子を見てもらおう」

2 ねらい

就学予定者の保護者が必ず学校へ来る機会をいかにするために、学校の様子を知らせたり、就学前に必要なことを知らせたりし、準備が進められるようにする。

3 内容

- (1) 時期 入学説明会
- (2) 場所 体育館・1年生の教室
- (3) 誰が 学校（1学年）
- (4) 誰に 就学予定者の保護者

4 方法

通常は、学校の紹介や入学前の準備、道具等の購入で会が進行している。質問等も大勢の前ではなかなか出てこない現状にある。

そこで、相談等に応じる時間と場所を用意して、個別に相談ができるようにし、安心して入学に臨める体制を作っていく。また、学習公開を行い、実際に1年生の学習や生活の様子を見てもらい、家庭でどのようなことを準備しておけばよいか分かりやすくする。

5 期待される効果

- (1) 入学説明会では、入学も間近に迫っているという意識もあり、就学前に身につけておいてほしいことが効果的に伝えられる。
- (2) 個別面談ができる場所と時間を確保することで、就学に際して、不安のある保護者への対応ができ、少しでも不安を取り除くことができる。
- (3) 学習公開で、1年生の生活や学習の様子を見てもらうことで、心構えや準備することがわかり効果がある。



研究協力委員からのアドバイス



その1

- 授業内容が、算数や国語の「できる」「できない」にならないように気をつけましょう。
- 紙芝居やお絵かき、簡単なゲームなどで、「話を集中して聞けるか」「一斉の指示で動けるか」「友だちとかかわって遊んでいるか」等が参観している保護者にわかるような内容がいいですね。
- 子どもと保護者が一緒に受けられることで、親子関係が垣間見られます。
- ビデオで1年生の入学当初や4月の生活や学習の様子を紹介するとわかりやすいですね。



その2

- 子どもと保護者が一緒に初めての授業を受けるのは、とてもよいプランだと思います。
- 子ども達が「あー楽しかった」と思えるプランにしてください。
- 保護者が、入学前の心構えや必要な道具の説明を受けている間、6年生が、読み聞かせ・紙芝居・ゲームなどをしてあげることもよいでしょう。

キッズコーナーや保育室を設ける際には、小さい子が少しの間遊べる絵本・おもちゃ等を準備できるとよいですね。

その3

就学予定者とその保護者はどきどきしながら、授業を体験するでしょう。うまくできると大きな自信を得て、小学校への期待がふくらみます。しかし、保護者から離れられない子、座ってられない子、普段はできるのにその時はできない子などいろいろな子どもがいると思います。うまくできなかった子が落ち込んだり、保護者から叱られたりしないような配慮が必要です。

個人差があること、家庭でのしつけのポイント、学校等での相談体制などを伝え、必要以上に心配しないようお話してください。

家に帰った時、「今日は楽しかったね。」「小学校って案外いいところかも。」「早く行ってみたいな。」というような会話がはずむような内容にできるといいですね。



もどる